④　ビッグプロジェクトの実施による町づくり

嘉手納ロータリー周辺は、町の中心地でありながら居住環境や商業環境などの都市機能の低下が目立ち、厳しい状況であった。限られた土地を有効に活用し、商店街の活性化を図りながら活気に満ちたまちづくりを推進するため、総合的に再開発する必要があった。

しかしながら、嘉手納タウンセンター開発における市街地再開発事業は、事業規模の大きさや沖縄県における同種事業の先行事例もないことなどから事業を進めるのに困難を伴い、嘉手納町における沖縄懇談会の他の事業と同様、懇談会の作業部会と調整を重ね、事業内容を詰めていった。

このビッグプロジェクトは、部外委託することなく、町の担当者によって、企画、立案されたものであり、全国に例をみない画期的な取組みである。この事業を通して、町の関係者が将来の発展に向けて自信を深めることとなった。

平成９年度の事業着手以来１１年の長きに渡って整備され、平成２０年７月に竣工式が行われた。今後、町の活性化につながることが期待される。

（市街地再開発事業：嘉手納町）

嘉手納ロータリー

ロータリープラザ

⑤　音楽を核とした街の活性化

沖縄市の歴史的背景から培われた沖縄民謡、ジャズなどを地域の資源として捉え、大きな可能性を秘めたこれら音楽・芸能を軸として、新たなまちづくりを推進するためのプロジェクトとして、音楽スタジオ、多目的スペースなどを中核とした施設をミュージックタウン事業として整備してきた。

賑わい創出、人材育成、産業文化支援を三つの柱として事業展開中である。平成１９年７月に竣工し、初年度は音市場、音楽広場を中心に７万人以上の集客があったが、現在までのところ、事前に期待されていたほどの即効的な事業効果は出ていない。

しかしながら、オープンしてまだ１年であり、また、沖縄市自体の音楽・芸能の土壌は豊かで、その潜在力は高く評価されていることから、今後、地域との連携や地域のブランドづくりなど、幅広い視点に立った取組みにより、持続可能な地域の活性化につなげていくことが期待される。

なお、沖縄市は平成２０年３月、中の町・ミュージックタウン整備事業により、ミュージシャン活動の場を提供し、街の活性化だけでなく人材育成にも貢献しているとして文化庁長官賞を受賞している。

（中の町・ミュージックタウン整備事業：沖縄市）

駐車場

音楽広場

多目的スペース

イ　雇用機会の創出、経済の自立等を目指した取組みの効果

①　IT 企業の進出

情報通信産業は、時空間のハンディキャップに関係なく立地可能であり、自然に恵まれてはいるが産業基盤の弱い沖縄県北部地域において、雇用創出とそれによる若者層の定住促進、人材育成など、その波及効果により地域産業に果たす役割は大きい。本施設を含め情報通信関連企業等の立地により、雇用機会は拡大し、賃貸住宅や飲食店等も増えた。人口も平成１２年と比較して、平成２０年で約８％、４５００人程度増加している。雇用者数、入居企業とも平成１１年当初と比して倍増している。

また、この事業を契機として、沖縄県に IT 企業が数多く進出するようになった。

（名護市マルチメディア館：名護市）

入居企業就業の様子

市民向けパソコン講座

②　頭脳集積型の町づくり

嘉手納町は町域の８３％を米軍基地が占め、残りのわずか２．６ｋ㎡での生活を余儀なくされている。そこで、広大な面積を必要とせず、高い雇用効果を持つ情報通信産業を誘致して雇用の場を創出し、IT 産業に関わる人材の育成にも取組んできた。

企業誘致により雇用者数は、開所当初の５倍程度までに拡大しており、ベンチャー企業向けのスペースについても常に満室である。

地域住民向けパソコン講習会を開催するなど、地域住民の情報リテラシー向上等人材育成にも一定以上の効果を上げている。町立の小中学校でも事業にパソコンが取り入れられており、単に産業振興的な成果にとどまらず、「頭脳集積型の町づくり」により、町の活性化が進展している。

（マルチメディアタウン事業：嘉手納町）

町民向けパソコン教室

コールセンターでの就業の様子

ウ　長期的な活性化につなげられる「人づくり」等を目指した取組みの効果

①　大学と地域の連携、国際化等特色ある人材育成

人材育成整備事業として整備され、名護総合学園（名桜大学）が指定管理者として管理運営している留学生センター、多目的ホール、総合研究所では、名桜大学の教員が市民向け講座の講師を担当するなど、大学と地域、学生や児童生徒及び市民を有機的に結ぶ施設として、若者の将来の希望づくりや人づくりに貢献している。

ネオパークは、国際種保存研究センターを中心にして、研究、学習施設として環境保全や人材育成に、また、観光施設として経済振興に寄与している。

国際交流会館は、名護市国際交流親善委員会の活動による

留学生等と市民との交流の場として、人づくりに貢献している。

（人材育成センター整備事業（名桜大学の関連施設）：名護市）

高校生による英語スピーチコンテスト
（多目的ホール）

公開講座（総合研究所）

② 農業従事者の育成及び高収益型農業の展開等

先進農業支援センターは、読谷飛行場の跡地利用の一環として整備され、読谷村の農業従事者や農家の育成、高収益型農業の振興などを目的としている。

花卉・野菜の各経営体（研修生）は５年を目途として入れ替えて、新規参入者の募集を行い担い手の育成を図る計画である。第１期生の 15 名は、研修終了後の展開を準備中であり、読谷村農業の担い手として期待されている。

また、バイオディーゼルの製造、販売も行っている。バイオディーゼル施設では、知的障害者と担当者が事業者や給食センターから回収した廃食用油を精製し、給食の運搬車や農家など、村内の車両に活用している。

このように、障害者の就労の場の拡大や循環型社会の実現に貢献することも目指している。

（先進農業支援センター整備事業：読谷村）

←トマト出荷作業

菊収穫作業→